

2021（令和3）年度事業報告書

（2021（令和3）年4月1日～2022（令和4）年3月31日）

特定非営利活動法人越谷らるご

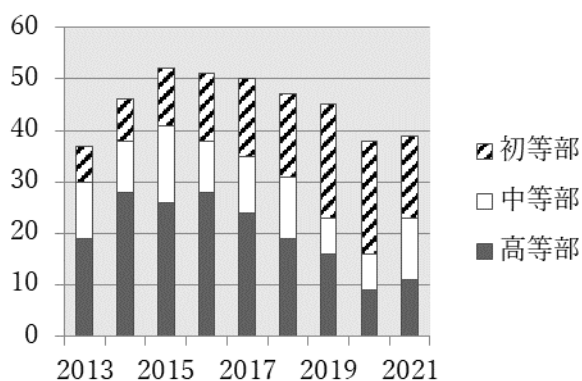
はじめに

定款に記載された目的および事業の内容を達成するため、事業計画に沿って下記の事業をコロナ感染の状況をみながら、可能な限り実施した。

1 事業の成果

1) フリースクール事業

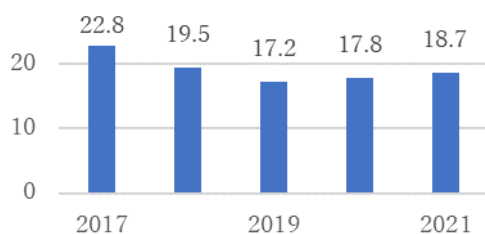
(ウ) 年度末の在籍者



2021年度もコロナに振り回された1年であったが、年間を通して前年度と同じように40名程度で活動することができた。

内訳は上のグラフのとおりで、初等部が減り中等部が増えた理由は、小学校から中学校に在籍が移ったメンバーが多かったことによる。

(ウ) 平均出席数



2021年度はコロナの影響で、8月～9月上旬は開所せず（その間、オンラインのりんごの木を実施。）以降9月下旬まで分散開所とした。

1日の平均出席者は18.7人（上のグラフ）で微増傾向にある。

活動としては、11月から3か月間、ひるめし食堂を実施できた。またスキー旅行は感染対策を施し希望者全員で行くことができた。2年ぶりの旅行であったため、初めての参加者も多く、貴重な経験となった。またお泊り会も2回実施した。

特別活動は、メンバーの希望に沿えない活動もあったが、季節ごとのイベントを含め概ね実施した。

感染対策としては換気とマスク着用と手洗いの呼びかけ、消毒等をこまめに行った。感染者が出た時も迅速に対応し、クラスター化することはなく、短期間で再開することができた。

講座・学習

通信制高校や大学在籍者へのレポート作成等の学習支援、進学に関する情報提供や相談等を個別に実施した。子ども通信は発行しなかった。

保護者との関わり

保護者会は実施できなかったが、保護者面談については夏休みを中心にオンラインでの面談を含め、実施した。また保護者有志によるお茶会の開催はなかった。

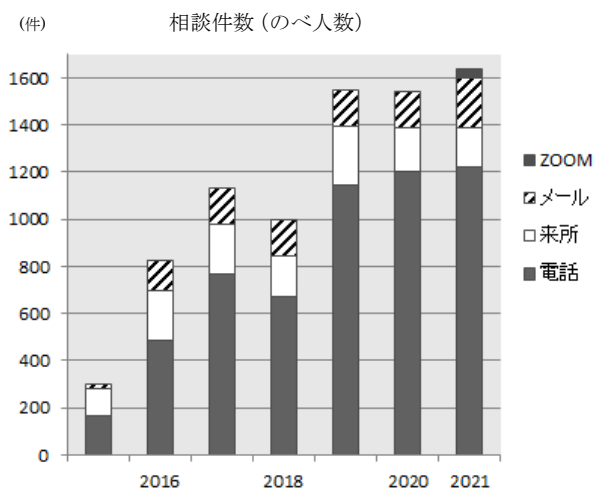
実習生等の受け入れ

文教大学の心理実習として学生を4名受け入れた。またフリースクールの実情を調査研究する学生（院生）や研究者も受け入れ、協力した。

2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の 相談に応じ、互助活動を支援する事業

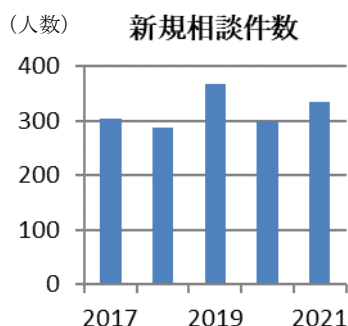
「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」

相談活動として、埼玉県の委託事業「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」でひきこもりに関わる相談を受けた。相談件数は下記のとおりで過去最多の件数があった。



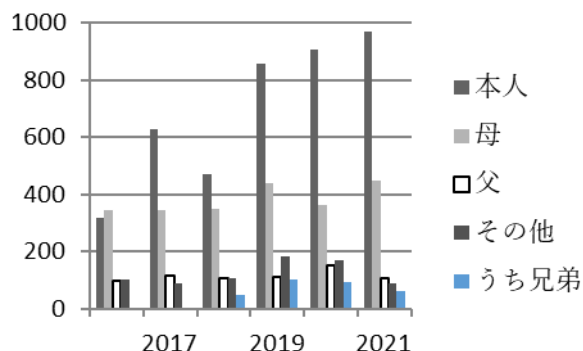
※2015年は11月からの5カ月間の開所。

2020年度は体制を整えオンライン（ZOOM）相談を開始した。週1回相談日を設け年間で35件の相談を受けた。オンライン相談は感染状況が悪化した時に増え、来所できない方が利用することが多かった。新規相談は下記のように例年300件程度で推移している。

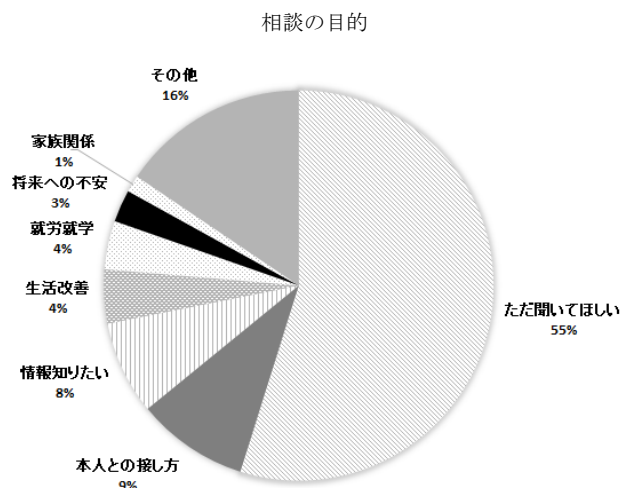


相談が多いのは、引きこもって5年未満と、まだあまり時間が経過していないケースで、ご本人の年齢は10代後半から20代前半が多かった。

相談された方(のべ人数)
(人)



相談された方は本人が変わらず圧倒的に多かった。引きこもっている本人の気持ちを否定的にとらえず、継続しての関わることを大切にしている結果だと考えられる。



そして、なかなか本人も家族もどうすればいいのか分からない中で、6割近くの方は、具体的な情報や提案よりも、ただ話を聞いてもらうことを望んでいる。当センターとしては、相談者の声に耳をしっかりと傾け、本人や家族が少しでも楽になって、安心して過ごせるように関わった。

2021年度は、3か所のひきこもり地域支援センターと2か所の関連団体と交流研修を実施した。

親の会

親の会は2/3程度の開催にとどまり、定期的に行えなかったことが残念だった。各回とも充実した会ではあったが、参加者はコロナのためか例年より少なめだった。

コル〜発達障害とともに生きる会

発達障害周辺の方（家族やご本人）を対象に、交流や情報交換の場として、年4回を計画どおり実施できた。

ほっとりんご（20歳以上の人の居場所）

感染リスクの低い活動を中心に実施した。参加者数はやや少なめだったものの、新たな参加者もあり、コロナ禍だからこそ居場所を実施する意義を痛感した。

また女性が安心して気軽に参加できるための「女子会」を年3回実施したが、うち2回は参加者がゼロだった。



2021/4/1 花見の様子

3) 生涯学習にかかわる事業

「わくわく体験プロジェクト」

地域や NPO、越谷市が協働して、保護者向けに不登校の体験談を聞く会等を3回計画どおり実施した。

4) 人権擁護の推進と福祉の増進に

かかわる事業(自立援助ホーム)

自立援助ホームゆらいは2022年3月で10周年を迎えた。入居者の希望もあり、wi-fi や深夜勤務についてなど、いろいろなルール見直す機会となった。

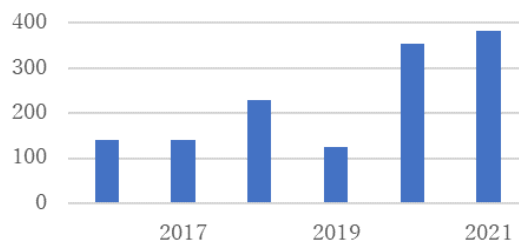
また長年勤めたスタッフが2名、退職となり、スタッフ体制が不安定ながらも、新たなスタッフを迎え、なんとか運営を続けることができた。

研修や会議は昨年に引き続き、減ってはいたが、オンラインや社会情勢を見ながら、多少は参加で

きた。運営委員会は予定通り、年4回、開催することができた。

退居者については、昨年に引き続き、コロナ禍での状況確認や物資の支援を行い、電話やメール、来訪や訪問などを通して、年間で382件の退居者支援を実施した。数名の退居者から深刻な相談があり、関係機関と協力して、支援をおこなった。

退居者支援回数



5) 活動のなかで得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業(広報事業)

「越谷らるご通信」は、月1回発行し、活動の案内や報告等を行った。

また活動報告や告知についてホームページやフェイスブック、メールマガジンなどインターネットを通しての発信も継続した。

越谷らるご法人化20周年記念誌を発行した。

埼玉県から埼玉県精神福祉事業功労者として表彰された。

外部委員参加（オンライン開催含む）

- ・埼玉県若者支援協議会
- ・越谷市自殺対策協議会
- ・埼玉県氷河期世代活躍支援プラットフォーム
- ・東京都学校・フリースクール等協議会
- ・さいたま市フリースクール等連絡協議会

講師活動

- ・越谷市保健支援センター家族会
- ・越谷市生活福祉課 ・鴻巣市健康づくり課
- ・埼玉県精神保健福祉センター（動画配信）

来訪

- 社会福祉協議会（鶴ヶ島、所沢、草加）
- 県議会議員（公明党、自民党）